

FLEXSCHE新機能紹介（2）

モデリング
スケジューリング
GUI
EDIF

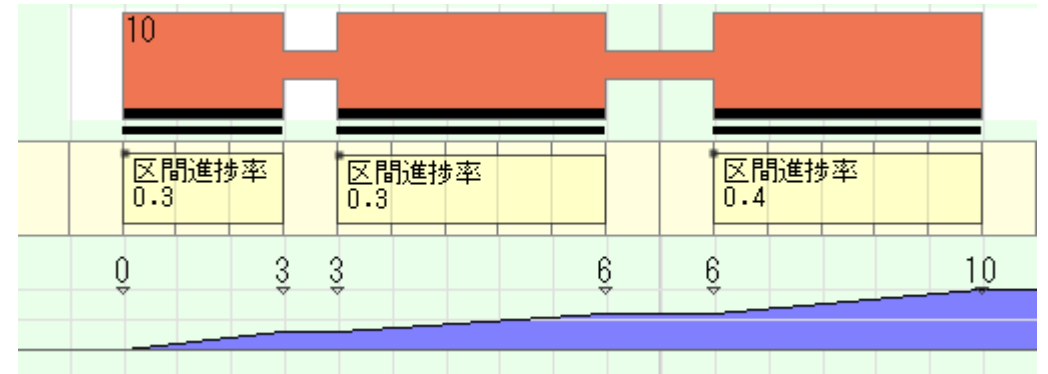


主な新機能

- モデリング
 - 差分実績
 - 実績数量バックフラッシュ
- スケジューリング
 - 資源容積による動的作業分割
 - 資源経路毎の探索を強化
 - 作業場計画を強化
- GUI
 - ジョブビューワー
 - [レコードによる全検索] を各所に
 - スケジューリングパネルにフォルダ
 - オーダーガントチャート行で引当先も
- EDIF
 - 対象テーブルによるフィルタ

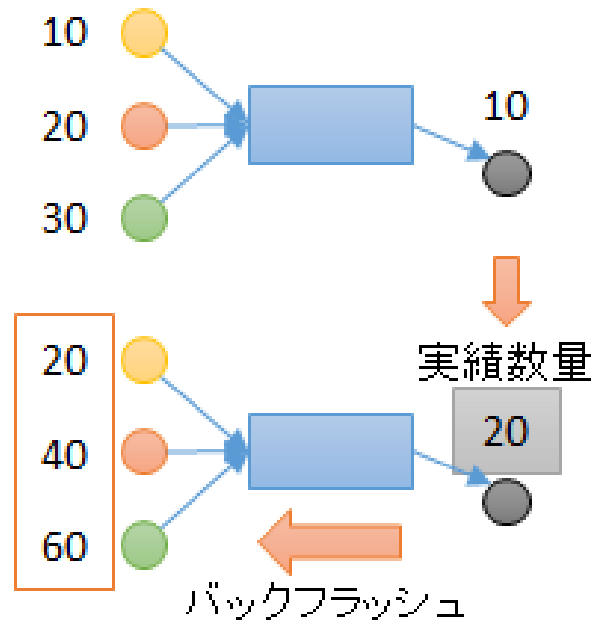
差分実績

- 作業の中断/再開日時を指定できるように
 - CarryOutも対応
- 作業実績細分レコードとして
開始（再開）→ 中断（終了）
の断片の情報を設定
- 種別：RI
- 「区間進捗率」：断片毎の進捗率



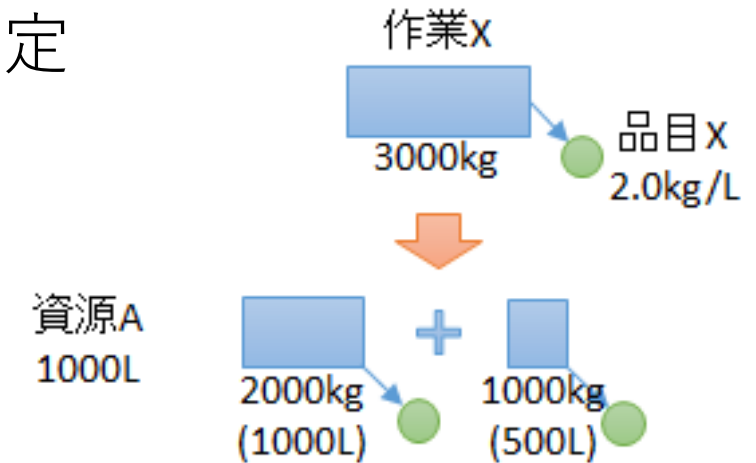
実績数量バックフラッシュ

- 「入力リンクがたくさんあって実績数量を入力するのが面倒」
- 出力リンクの実績数量を指定 + 「バックフラッシュ」をYesに
→ 各入力リンクの数量が元の比率に応じて自動的に変化



資源容積による動的作業分割

- 資源の制約として「容量」ではなく「容積」を設定
- 例
 - 作業のリンク数量は「質量」
 - 資源の大きさの制限は「容積（体積）」
- 従来：資源容量
 - 格納物の密度の違いに応じて資源の容量を個別に設定
 - 密度のバリエーションが増えると容量も追加
- 今回：資源容積
 - 資源には容積の範囲を 1 つ設定
 - 各品目には密度を設定
 - →数量制約／動的分割／充填補充
 - 要：上級オプション「資源容量による充填」（1 ユニット）



資源経路毎の探索を強化

- 従来
 - 各作業の全タスク資源の組合せを経路として列挙
 - 各経路では全タスク資源が一意に特定
 - 経路数が多い→スケジューリング時間が長くなる
- 経路を主要タスクだけに限定できるように
 - 主要タスクの資源の組合せを経路として列挙
 - 各経路では非主要タスクの資源は未特定
 - 経路数を抑制→スケジューリング時間を短縮
- 作業主導「資源経路選択」ページを追加
 - 経路の評価や抽出方法はこちらで
 - 非主要タスクの資源選択は従来通り「資源選択」で

作業場計画を強化

- 作業場領域制約を副資源と連動
 - 副資源に応じて、配置可能な子領域を限定
 - 禁止領域/限定領域/接触領域 いずれも可
 - 例：子領域毎に重量制限（maestro-ML）
 - 各子領域に対応する多重資源を用意、副資源として追加
 - 重量を資源量で表現
 - 資源選択基準や配置評価はデフォルトのまま
- 資源主導でも作業場計画を可能に

ジョブビューワー

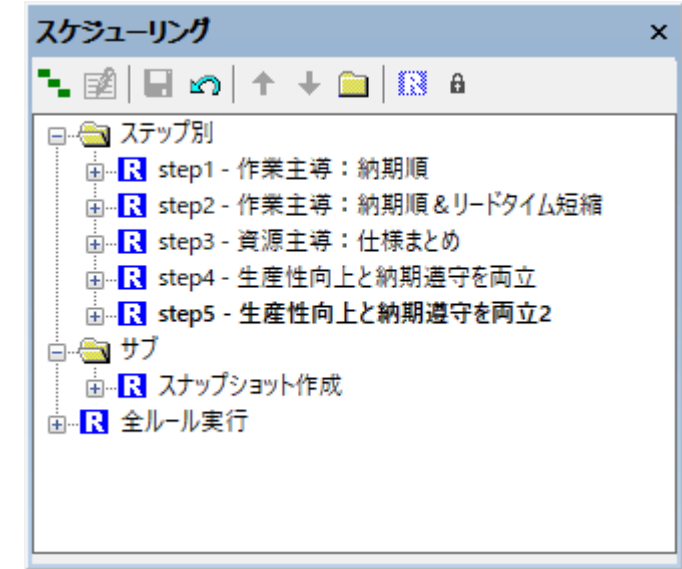
- 作業ビューワー（パネル）のジョブビューをウィンドウ（ビュー）として表示
- 複数のジョブビューワーを同時に表示できる

「レコードによる全検索」を各所に

- 例
 - 資源ガントチャートのタスクから
 - オーダーガントチャートの作業から
- 「検索結果」パネルも改良

スケジューリングパネルにフォルダ

- ルールをフォルダに入れて管理できるように
 - スナップショットと同様
- 「セパレータ」ダミールール不要に



オーダーガントチャート行で引当先も

- オーダーガントチャート行で
オーダー引当や作業連結で接続した別オーダーの作業も
表示できるように
- 上流の更に上流、下流の更に下流も（単方向のみ）
- 必要な設定は表示設定のみ
- オーダーの依存関係を把握しやすく
- 従来
 - [作業グラフコード] に指定してリスケすれば同一行に
ただし
 - 作業グラフコードは各オーダーに1つまで
 - 引当がM:Nだと難しい（全部が1つの行に）

EDIF 対象テーブルによるフィルタ

- 従来：グループによるフィルタ
- FLEXSCHEテーブル種類によるフィルタ
- 外部テーブルによるフィルタ
- テーブルマッピングが多い場合に
内容を確認しやすく